



上末っ子

令和6年2月29日

3月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>



学校ホームページ用 QR コードです。学校の様子をご覧ください。

「成長」を見いだす

校長 内田 宏平

『風が強く吹いている（三浦しをん著）』という本が大好きで、過去二度読んでいます。そして、今、三周目に入っています。大学生が箱根駅伝を目指すストーリーなのですが、これが心に響くのです。陸上経験の無い学生たちが、それぞれの思いをもちながらチームとしての目標を目指し、仲間と共にチャレンジする・・・展開はすっかり頭に入っていますが、何度読んでも感動します（未読の方は、ぜひ！駅伝に興味が無くても楽しめます。）。

どうしてこの本にここまで惹かれるのか。マラソンや箱根駅伝が好きだからということもありますが、登場人物一人ひとりが生き生きとしていて、それぞれの「成長」が心を打つというのが一番の理由です。挫折や葛藤を乗り越え、チャレンジを経て成長する姿。涙なしには読めません。

「成長」は人の心を打ちます。

先月号でも登場したメジャーリーガー大谷翔平選手。彼の人気は、実力や人柄に裏打ちされたものですが、日本で暮らしている我々にとっては、大谷選手は、高校生の頃から知られた存在です。まだまだあどけなく、線の細かった大谷少年が「成長」を重ねて今や世界一ともいえる野球選手になっている・・・「成長」を背景として活躍する大谷選手の姿が、我々の感情を揺さぶるのでしょう。

子どもの頑張る姿が見る人に感動を与えるのも、その背景に「成長」を感じさせるからだといえます。

ただ、毎日近くで見ていると、その成長が見えにくくなります。「成長」を「当たり前」と感じる傾向が強くなるからです。むしろ、「当たり前」の中からこそ「成長」を見いだす感覚が、子どもを支える我々大人に必要な資質なのかもしれません。例えば、「挨拶するのは当たり前」と思っていると、子どもの挨拶の質が変わっていることを見落としてしまうかもしれません。誰に対しても気持ちのよい挨拶ができたり、いつも明るく挨拶できたり、自分から挨拶ができたり・・・と、同じ“挨拶”でもその中には、成長のステップが様々あります。そういう視点をもって子どもの様子を見てみると、この一年間で得られた成長が多く見つかるのではないかと思います。

年度末の今だからこそ、ご家庭でお子さんの一年間の姿を振り返り、ご家族の目から見て成長したと感じる部分を本人に伝えてあげてほしいと思います。子ども自身が「成長」を自覚できると、それは実力となって常に発揮することができるものになるからです。ぜひ、子どもの「成長」に心打たれてください！

令和5年度は間もなく終わります。終わりの時期は新たな一年に向けての助走でもあります。

～ 長く助走をとった方がより 遠くに飛べるって聞いた ～ Mr.Children『星になれたら』

この時期に子どもの「成長」をしっかりと見いだすことによって、子どもの助走は勢いを増すはずですよ。

保護者の皆様、地域の皆様、関係の皆様、今年度も学校教育活動へのご理解とご協力をいただくとともに、子どもたちの成長を温かく支えていただき、本当にありがとうございました。令和6年度も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

